

なんでも観とかなないと

「上を向いて歩こう」「遠くへ行きたい」「見上げてごらん夜の星を」等、よく知られている歌の作詞者永六輔さん。「尺貫法を残そう」や「上を向いて歩こう」「遠くへ行きたい」「見上げてごらん夜の星を」の永六輔さんインタビュー。今、前、スピードインタビュー。聞き手は浜島康弘日本のおつた永六輔さん5月のある日、「遠くへ行きたい」全国協議会幹事長。

浜島 「黒い花びら」「上を向いて歩こう」「見上げてごらん夜の星を」「ここにちがは赤ちゃん」「遠くへ行きたい」……これみんな永六輔さんの作

詞で、みんなよくわかってきた歌です。永六輔さん。その最初は「黒い花びら」ですが、作詞をされたそのものきりか



放送タレント 永六輔氏に聞く

きき手 浜島康弘 (日本のうたごえ全国協議会 幹事長)

永六輔さん、二十年前の「上を向いて歩こう」の大ヒット、よく覚えてます。永六輔さん「夢で会いましょう」というテレビ番組

男は恥かしか仕事ばしていかん
浜島 いやあ、二十年前のというのは意外な気がしますね。「上を向いて歩こう」の大ヒット、よく覚えてます。永六輔さん「夢で会いましょう」というテレビ番組

「上を向いて歩こう」の永六輔さん「夢で会いましょう」というテレビ番組

永六輔(えい・ろくすけ) 1933年、東京・浅草の寺に生まれる。早大在学中に三木鶏郎の「元寇工藤」に参加。日本テレビ「光子の窓」、NHK「夢で会いましょう」の構成を担当し大ヒットさせた。また、作詞家としても「黒い花びら」(水原弘歌)、「上を向いて歩こう」(坂本九歌)、「遠くへ行きたい」(シエリ・藤尾歌)、「ここにちがは赤ちゃん」(梓みちよ歌)などヒットさせた。現在はほとんどの毎日旅で暮らし、日本各地のラジオに出演しながら、本物の芸能の発掘に余念がない。著書は「遠くへ行きたい」「芸人その世界」「ウツラとカネ売ります」「この本がさい」。「無名人名語録」「普通人名語録」など多数。

今、パンソリに魅せられて

夏の間は若草が目にした季節だ。一面に生い茂った草を柄の長い鎌で刈っていくパンソリの農村風景。収穫の喜びに湧く人々の生活。
★ ★ ★
初めて「収穫の歌」を聞いた時、響きの心地よさに情景を重ね、憧れと共に覚えうたったものだった。その頃の思い出と共に、楽しく口ずさんできたこの歌にこんな背景があつたとは……
★ ★ ★
先日、二週にわたってテレビで放送されたレニングレード・マイルイ・ドラマ劇場の「兄弟姉妹」を観た。第二次大戦直後のソビエトの農村が舞台。戦争で夫を失った農夫、土地は荒れてしまった農民たちに、スターリン下の国策コルホーズ(集団農場)は容赦なくそのノルマを課した。
★ ★ ★
人々を苦しめたためたための教育宣伝として鼓舞された「収穫の歌」。見事に展開される舞台と、流れていく「収穫の歌」。長い間、私の心にふくらみを持って在った歌は寂しくしほむ。ペレストロイカでの一つの告発。
★ ★ ★
「無知は罪である」と言っていた人がいる。今、真の自由、民主主義を求め立ちあがっている世界中の人々。その人々の声にしっかりと耳を傾けないと、私たちは、無知の罪を重むることになってしまふ。五時間のドラマは、自由の叫びに連帯する意味を問いかけてくるようだった。(純)

